



編集：構成 清田哲男・岡山大学大学院准教授

本資料は、「教科書宣伝行動基準」に則り、
配布を許可されているものです。

日文の実践事例、教科情報

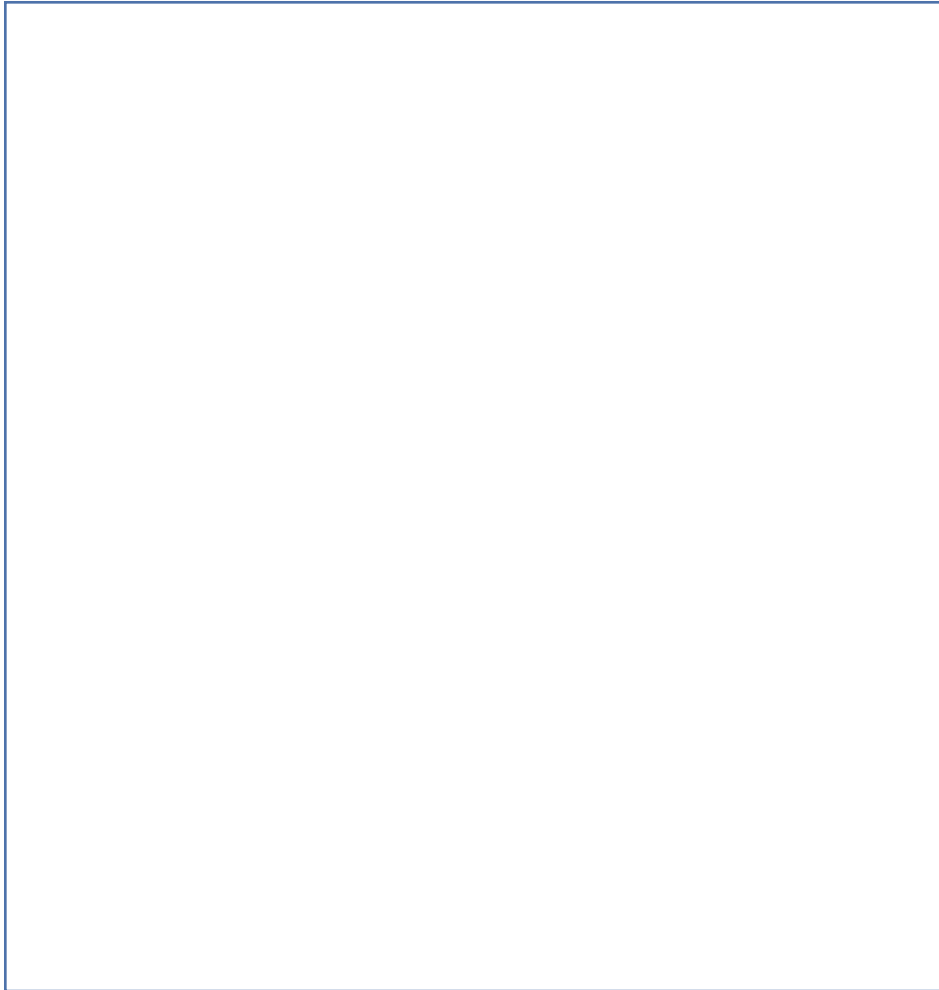
詳しくはWebへ!

日文

検索

未来をになう子どもたちへ

日本文教出版



【コンテンツ一覧】

- 子どもの絵の発達と道筋 PDF版
- 子どもの絵の発達と道筋 PowerPoint版
- 児童・生徒作品
- 子どもの形や空間認識の発達参考作品

【起動方法】

1. CD-ROMドライブに「子どもの絵の発達と道筋 子どもの絵の作品と説明 CD-ROM」をセットします。
2. 自動的に「子どもの絵の発達と道筋」が表示されます。

※自動的に表示されない場合、[マイコンピュータ]を開き、CD-ROMをセットしているドライブを右クリックして[自動再生]をクリックするか、CD-ROMをセットしているドライブを開き[index.exe]（表示設定によっては[index]）をダブルクリックします。

【動作環境】

Windows Vista（日本語版）以上

CD-ROMドライブ

その他、Adobe Acrobat Reader，Microsoft PowerPoint2007以降

■CD-ROM 取り扱い上のご注意●ディスクは両面共、指紋、汚れ、キズなどを付けないように取り扱ってください。●ディスクが汚れたときは、メガネふきのような柔らかい布で内周から外周に向かって放射状に軽くふき取ってください。レコード用クリーナーや溶剤などは使用しないでください。

●ディスクは両面共、鉛筆、ボールペンなどで文字や絵を書いたり、シールなどを貼付しないでください。●ひび割れや変形、または接着剤などで補修したディスクは、危険ですから絶対に使用しないでください。

■保管上のご注意●直射日光の当たる場所や、高温・多湿の場所には保管しないでください。●ディスクは使用後、元のケースに入れて保管してください。

※ Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。その他、記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。

利用規約（使用許諾契約書）

本利用規約（使用許諾契約書）は日本文教出版株式会社発行の「子どもの絵の発達と道筋 子どもの絵の作品と説明 CD-ROM」（以下 本 CD-ROM）を利用される方が、本利用規約（使用許諾契約書）に同意されていることを前提に提供しております。従って、何らかの理由で利用者が本利用規約（使用許諾契約書）に同意できない場合は、本 CD-ROM のご利用はできません。

1. 本 CD-ROM について

(1) 利用者の視聴環境・接続形態などにより、ご利用できない場合があります。利用されるネットワーク環境を充分にご理解の上、ご利用ください。

2. 利用者

(1) 本 CD-ROM を利用される場合は、規約の内容に変更があり得ることも同意されたものといたします。

3. 免責事項

弊社は、本 CD-ROM の瑕疵により発生した利用者の損失や損害以外に、その他の原因で発生した損失や損害、および利用者が本 CD-ROM の利用により第三者などに損害を与えた場合は、一切責任を負いません。

4. 著作権

(1) 本 CD-ROM 内に収録されたすべての情報・映像（音声を含む）・画像などの著作権は弊社に帰属するか、または他の著作権者などの権利者から許諾を受けているものです。よってこれらの著作物の全部又は一部を弊社の了承を得ずに、無断で複製、放送、送信、変更、販売、貸与などすることは法律で固く禁じられています。万が一そのような行為が発覚した場合は、当該行為に対して違法行為とみなし、損害賠償請求を行う場合があります。

(2) 利用者は、本 CD-ROM や印刷物の著作権表示を削除することはできません。

5. 禁止事項

(1) 利用者は、本 CD-ROM に含まれる一切のものを、有償、無償に関わらず、第三者に譲渡、販売、貸与することはできません。

(2) 利用者は、本 CD-ROM についてリバースエンジニアリングやコンパイル、逆アセンブラをすることはできません。また、本 CD-ROM を変更して使用することはできません。

6. 保証の範囲

(1) 利用者の責により、本 CD-ROM を使用できない場合は、交換に応じられません。

(2) 弊社は、本 CD-ROM に関して、本利用規約（使用許諾契約書）に指定された以外に保証をしません。

(3) 弊社は、本 CD-ROM の使用または使用不可能から生じた利用者の損害（金銭的、非金銭的に関わらず一切の損害を含みます）および第三者から利用者に対してなされた損害賠償請求に基づく損害に対して、一切責任を負いません。

(4) 本利用規約は、弊社が規定する「購入ガイド」「特定商取引法に基づくお知らせ」に基づいています。詳しくは弊社 Web サイトをご覧ください。

7. その他

(1) 本 CD-ROM の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。

(2) 本利用規約に定めない事項については、著作権法および関連法規、弊社販売ルールに従うものとします。

(3) 本利用規約に関わる紛争は、東京地方裁判所を管轄裁判所として解決するものとします。

第 1 版 2016 年 6 月 日本文教出版株式会社

子どもの絵の発達と道筋

●子どもの絵の作品と説明●

何げなくかいた子どもの絵を、年齢順に見ていくと、発達の順序があり、発達の道筋があります。また、子どもの絵には、子ども独特のユニークな発想や思考や空間認識があり、子ども宇宙（世界）があります。子どもが絵を通して何を語ろうとしているのか、そのメッセージを読み解く手がかりになれば幸いです。

この「子どもの絵の発達と道筋」は、他の文献によって、例えば象徴期後期の4歳児の表現を「図式期前期」と区分するなど、名称や年齢が異なりますが、絵の表現の発達の道筋は基本的には同じです。また、あくまで一般論であって、子どもによって異なりますので、断定的に決めつけるのではなく、子どもの絵を見たり、絵の指導をするときの参考にしてください。

また、留意してほしいのは、年齢に関係なく、なぐりがきや絵記号を並べてかくなど、独自の表現をする子もいます。アール・ブリュット（ART BRUT＝フランス語・生のままの芸術）という表現もありますように、独自の表現を尊重するようにしてください。

学生・教師・研究者の皆さんが、子どもの絵の表現や認識や心理を理解する手がかりとして、本 CD-ROM に掲載された子どもの絵や作品説明文を自由に活用して頂くことを願っています。

研究会、教育・心理学関係者の授業、シンポジウム、ゼミ、講演等の資料などで、2～3点映像で映すとか、自由に抜粋して活用して頂いてもかまいません。あるいは、子どもの絵の説明や心理や発達の事例の一つとして活用して頂いてもかまいません。広く活用して頂くことを望んでいます。

絵を映すときは、レーザーポインターで絵の部分を示しながら説明すると具体的に分かりやすいです。説明文は読み上げるのではなく、ポイントだけおさえて、あとは自由に。

ただ、論文、本に作品を掲載するときは、引用文献の関係がありますので、「子どもの絵の発達と道筋」（日本文教出版）（2016年）を引用文献の欄に掲載してください。なお、古代の絵、ピカソなどの作品（2-1～2-8）については、論文、出版物に引用・掲載するときは、著作権の問題が発生しますので、他の文献と同じように了解をとってください。

いずれも編・著者の了解をとる必要はありません。

本 CD-ROM に関する「子どもの絵の発達」については「子どもの絵は何を語るか～発達科学の視点から～東山 明・東山直美著（NHK ブックス 863・日本放送出版）（1999年）を参照して頂きますと分かりやすいです。

また、本 CD-ROM の作成にあたりましては日本文教出版、岡山大学の清田哲男氏および高橋昌人氏にお世話になりました。厚くお礼申し上げます。

2016年5月5日

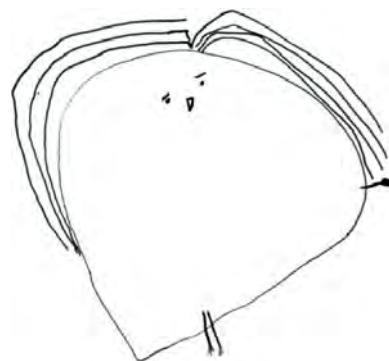
神戸大学名誉教授 東山 明

※ 掲載の作品は1960年代～1998年の間に制作されたもので、絵をかいてくれました当時の子どもたちと指導されました先生方に感謝しています。

1 子どもの絵の発達と道筋 絵の説明

子どもの絵の発達の道筋は、他の文献によっては名称や年齢の区分が異なる文献があるが、発達の順序性は基本的に同じ。

但し、個人差があり、年齢についても子どもによって異なることがあり、流動的に考えている。また、指導の方法によっても異なる。



年齢

0
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18

I なぐりがきの時期

Scribble (スクリブル)
さくが
錯画期
ぬたくり期

1歳半～2歳半ごろ

II 象徴期

命名期
4歳ごろの絵を図式前期

2歳半～4歳ごろ

III 図式期

展開描法
多視点画法
レントゲン描法 など

5歳～8歳ごろ

IV 写実の黎明期

れいめいき
部分知覚が優勢
矛盾のある表現

8歳～11歳半ごろ

V 写実期

客観的
写実的

11歳～14歳ごろ

VI 完成期

高度な描写や表現
心情や思想的な美も理解

14歳～18歳ごろ

作成 東山明

I なぐりがきの時期

1歳半～2歳半ごろ

Scribble (スクリブル)

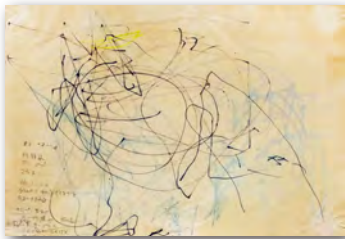
さくが
錯画期
ぬたくり期

はじめは点や短線を叩くようにしてかく。
「なぐりがき」を英語で Scribble という。

次第に横線、波線、渦巻き線が加わり、丸や形が出はじめる。

なぐりがきの後半では、イメージを描いて、つぶやきながらかく。

1-1 「絵かいた、見て」



I なぐりがきの時期

1歳11ヶ月

ペンを持って、紙の上を叩くようにして、点や短線をかく。

ペンで叩くとその痕跡が残るので、その運動感覚を楽しんでかいている。

早い子は1歳前後からかく。

1-2 1歳児 11ヶ月ごろの作品



I なぐりがきの時期

1歳11ヶ月

次第に手の動きがスムーズになり、横線、曲線、渦巻き線などを、画面広くかく。

点や短線を叩くようにかく子、曲線や渦巻き線をスムーズにかく子など、様々な子がいる。

「なぐりがき」を英語で Scribble という。

1-3 「車、ぶぶうー」



I なぐりがきの時期

2歳前後

2歳前後から、線を走らせ、「車ブブーとか、信号・・・」「雨が降っているの」など、つぶやきながらイメージを描いて絵をかく。

単なる手の動きを楽しむのではなく、頭の中でイメージを描いて、つぶやきながらそれをかいている。

Ⅱ 象徴期

2歳半～4歳ごろ

命名期
4歳ごろの絵を図式前期

丸や形が表れ、
それに意味づけ（命名）する。

象徴的な形や頭足人のような絵記号をかき、
その意味を説明する。

イメージのおもむくまま、
羅列的・断片的にばらばらにかく。

1-4 「くだもの」

Ⅱ 象徴期

2歳半ごろ

なぐりがきから象徴期へ

果物を同じ日にかいたが、上の絵の子は「リンゴ、ミカン、イチゴ・・・」とつぶやきながら曲線や渦巻き線をかいている。

下の子は、リンゴの形や中のへたをかいたり、イチゴの形を丸や形にかくなど、形が独立し、象徴的にかきはじめている。



1-5 形が表れる

Ⅱ 象徴期

3歳前後

右上の子は、丸の中に目鼻をかいて（顔をかいたというより、顔だけで友だちの全身を象徴的に丸型で表している）、友だちと遊んだことを話している。

左下の子は、焼き芋を焼いて皆で食べたことをかいた。

子どもから、絵の内容を聞いて、鉛筆で画面の余白にメモしておくとお親が見てもその内容が分かりやすい。



1-6 「電車に乗って遊びに行った」



Ⅱ 象徴期

3歳前後

下の線と丸は電車に乗っていったこと、左上の絵はバスに乗ったこと（タイヤが上についている。上下関係を無視してかいている）。

右上は父、左下は母、その上は自分と左の小さいのは赤ちゃん。4人で遊びに行った。

（同時性＝その日にあったことを同一画面に全部を羅列的・断片的にかいている）

1-7 「ママが服を着せてくれたの」



Ⅱ 象徴期

2歳半

ママに服を着せてもらっているところ。人の表現の最初は○だけで、次にこの絵のように顔だけで象徴的に表し、次にそこから手足が出てきて「頭足人」の表現になる。

顔（自分）のまわりの曲線は、服を着せてもらったことを表している。

1-8 「家族4人」



Ⅱ 象徴期

3歳前後

中央は母、左は父、右の2人はその子ども。

家族の絆が感じられる。

1-9 「ママにだっこされている私」



Ⅱ 象徴期

3歳

大きな体のママ。上の方に顔、下の2本線は足、左右の線は手。ママの胸には自分が抱かれている。自分の上の黒は髪。

頭足人と一般的にいわれているが、この絵でも分かるように、上は頭、下部は胴体と、頭と胴体をまとめて頭部にかき、そこから手足をかいている。

1-10 「ガムを両手でのばしている」



Ⅱ 象徴期

3歳11ヶ月

チューインガムを両手でのばしているところ。

顔から両手が出ているのではなく、顔の下部は胴体でそこから手が出ている。 右のほっぺの丸と下の横線はチューインガム。

作品1-9の「頭足人」と同じ理由。



下の作品は「弟が泣いている、スズメが3羽いるの」というテーマでかかっている。中央は弟で、右の3つの顔はスズメで、チュンチュン鳴いている。

1-11 | 「母」

II 象徴期

4歳



作品A



作品B

作品A、Bは「母の日」（5月）にかいた。

作品Aの子は、大きな顔から可愛い手足が出ているが、顔の下部は胴体で、胴体から手足が出ている。

大人のように頭部と胴を分けてかくのではなく、象徴期の子は胴体の関心が薄いので、まとめて顔で表す。

作品Bの子は、胴体に気が付き、顔と胴体を分けてかいたが、手はまだ顔のところに残している。

1-12 | 「母」

II 象徴期

3歳



母と僕と弟。大好きな母は大きくかいた。(拡大描法=興味のあるものは強調して大きくかく)。

また、オッパイは母親の象徴で、象徴期の子どもはよくかく。古代人もよくかいている。

1-13 | 「父」 <頭足人>

II 象徴期

4歳



お父さんをかいた。

メガネをかけ、腕に毛が生えている。

頭部から手足が出ている「頭足人」(作品1-9の説明参照)の表現で、3歳前後の子どもがよくかく。

この絵からも頭部は、上部は顔の部分、下部は胴体（胴体は子どもにとって関心が薄いことも考えられる）で、その胴の部分から手や足が出ている。

1-14 「運動会」

Ⅱ 象徴期

4歳

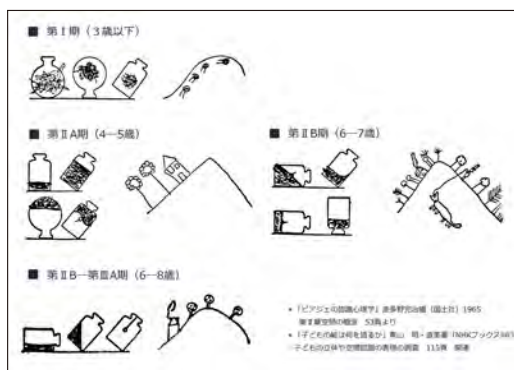


中央右の渦巻きはリレーでぐるぐる走って回ったこと、左上の点線は入場するところ。左上は本人で、右は観客席。中央の赤いもの、左下のものはその日にあったことをかいている。運動会の日にあったことを同一画面に全部かいている（同時性）。

20世紀初めに写真機が生まれ、新しい表現として、抽象画家のミロ（2-7）が、画面の上下関係を取り払って、「象徴期」の子どものようにばらばらに絵記号を組み合わせてかいている。

また、同時代の抽象画家パウル・クレー（2-6）も「私は子どものような表現をしたい」と言っている。

1-15 ピアージェ（子どもの空間概念）



「ビンの中の水」：第Ⅰ期の子は、ビンの中に水があるという「存在」を表している。第Ⅱ期では水の水面をかいているが、ビンを傾けたりした時、水面がどうなるか楽しい思考をしている。山に生えている木においては、第Ⅰ期の子は、木は山の中にあるので山の中に、第Ⅱ期の子は山の斜面に木をかいているが、地面に垂直に、第ⅢA期の子は、斜面でも木や家は垂直に立っていることをいおうとしている。

* 「ピアジェの認識心理学」波多野完治編（国土社）1965 第Ⅱ章空間の概念 53頁より

* 「子どもの絵は何を語るか」東山 明・直美著（NHK ブックス 863）子どもの立体や空間認識の表現の調査 115頁 関連

Ⅲ 図式期

5歳～8歳ごろ

漠然とした全体知覚が優勢で、記憶していること（知っていること）を絵にかく。

花・人・太陽など、絵記号を組み合わせて図式的にかく。

基底線や空が表れ、画面上に空間設定ができる。
平面的で重なり、遠近がない。

展開描法、多視点画法、レントゲン描法や興味のあるものを拡大してかく（拡大描法）。

女の子は花、女の子、太陽、小動物を組み合わせて、平和的な絵をかく。

男の子は乗り物、怪獣、ロボットなど、速いもの、強いもの、メカニクなもの好んでかく。戦闘的な表現をする。

1-16 「園庭の池」

Ⅲ 図式期

5歳



ここから9枚(1-16～20)は公立幼稚園の年長組の子が6～11月にかいた作品。

下の絵は園庭の池にいるカエルと蓮の花をかいたもので、5歳児の子がよくかく図式期初期の表現。上は男の子の作品で、下のギザギザは池の底に泥がたまっている。左はカエル、右には池にいる虫と虫の家をかいている。イメージしたことをばらばらにかく象徴期の表現で、ミロ(2-7)やクレー(2-6)の表現と共通している。

1-17 「水泳」

Ⅲ 図式期

5歳



上の絵は、プールで泳いでいる絵で、下の2人は潜っているところ。問題は上の2人で、飛び込んだところと思ったが、本人に聞くと泳いでいるところだと言う。

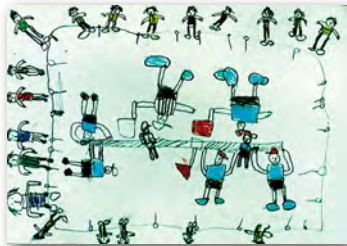
このころの子は水と重ねてかけないので、水面の上に泳いでいる人をかいた。古代エジプトの絵(2-5)に重なるものを積み上げてかくのと同じ。

下の絵は断面図的にかいた絵で、空中で泳いでいる子が2人いるのがほほえましい。

1-18 | 「綱引き」 <展開描法>

Ⅲ 図式期

5歳



展開描法の絵で、綱を引く人、周りの人もいろいろな方向から、みんな正面から見た人をかいている。

円陣を組んでいる人は放射線上に倒れたようにかく。古代の人(2-2、2-3)の絵にも図式期の表現がよく見られる。

1-19 | 「どんぐり拾い」

Ⅲ 図式期

5歳



どんぐり拾いに行った時の絵。上は斜め上から鳥瞰^{ちようかん}図的にかいた。



下の絵はどんぐり拾いをした山道が凸凹した道であったので、断面的にかいた。道にはどんぐりや落ち葉が落ちている。

1-20 | 「どんぐり拾い」

Ⅲ 図式期

5歳



作品 1-19 と同じ日にかいた絵であるが、上の絵の子は画面の上下関係がかけず、木や落ち葉や人をいろいろな方向からかいている。



下の子は人の顔(人)も見えるが、絵記号でかいている。象徴期の表現である。同じ5歳児といっても、個人差があり発達の早い遅いの子がいるので配慮して指導する必要がある(発達段階はあくまで一般論であって、個々の子によって発達の違いがあり、年齢とは流動的に考える)。この子は絵が下手なのではなく、発達がゆるやかでいずれ追いついてくる。

1-21 「家と花壇」

Ⅲ 図式期

5歳



2階建ての家。中の左のジグザグした線は階段。画面左の円は池で水がたまっている。庭の花はチューリップで「花が咲いている」という花の絵記号。左下にはウサギ。

1-22 「私」＜絵記号を組み合わせてかく＞

Ⅲ 図式期

5歳



お人形のような女の子は自分。太陽は天気がよくて気持ちいい。チューリップの花は花の代表の絵記号。このころの女の子の絵は太陽、花、人（お人形のような女の子）、家、小動物（ウサギ、チョウ、ペンギンなど）の絵記号を組み合わせ平和的な絵をよくかく。

1-23 「なわとび」＜基底線＞

Ⅲ 図式期

5歳



基底線（地面）と空を画面上に設定して、その間の空間に、人、花、木、家などを組み合わせた絵をよくかく。

1-24 外国の子ども絵

Ⅲ 図式期

5歳



外国（アメリカ）の子ども女の子の絵。1-22、1-23の女の子の絵と共通して、女の子、家、花（日本の子はチューリップを花の代表としてよくかく）を基底線にかくのは、万国共通で、どこの国の子もよくかく。

1-25 | 幼児の絵は万国共通 / R. ケロッグ



*「児童画の発達過程」ローダ・ケロッグ著・深田尚彦訳（黎明書房）1971 裏表紙より

世界中の子どもは、幼児の段階では同じような絵の表現をする（万国共通）。小学校中・高学年になると、国によっては図工科の授業もなく放置された国もある。日本のように図画工作科などの授業があり、絵の指導がなされている国とは、絵の表現の中身も変わってくる。

1-26 | 「くだもの屋さん」 <拡大描法>

Ⅲ 図式期

小学1年



人の顔より大きい柿やリンゴ。

子どもは興味のあるもの、大事なものは拡大して絵にかく（拡大描法）。大人のように、ものの比率や大きさを考えてかくのではなく、自分が強く感じたり、印象に残っているものを大きくかく。

1-27 | 「スーパーで風船をもらった」

Ⅲ 図式期

5歳



スーパーマーケットで風船をもらった自分を中心に、左上の買い物かご、右のお客さんと店の様子が楽しくかかっている。

この時期の子どもは、見てかくのではなく、知っていること（体験したこと、記憶していること）を絵にかくので、絵をかく前に体験したことを思い出したり、話し合ったり、その時の印象を深めたり感動を引き出す指導をすると、絵の内容が深まり感動を伴った表現をする。この時期の子は、漠然とした全体知覚が優勢で、見えた通りではなく、自分が記憶していること、知っていることを絵にかく。

1-28 「田植え」 <多視点画法>

Ⅲ 図式期

小学1年



田んぼは、広さを出すために上から見たように、家は側面（家も上からかいたら屋根しかかけない）からかいている。家の中の様子は、レントゲン描法で透き通してかいている。田植えをする人は横から見たように、畔にいる3人は、畔を基底線にしてかいたので、横向いている。子どもは、画面全体としては矛盾していても、かくものの特徴が一番かき表しやすい方法で表現する。

1-29 「歯医者」 <展開描法・多視点画法>

Ⅲ 図式期

小学2年



患者の自分は上から見たように、歯医者は側面から、上の看護師は左から、下の看護師と3人の患者は右からかいている。おそらく、画用紙を回転させながら、一人ひとり正面からかいている。このようなかき方を多視点画法または展開描法という。

1-30 「ワニ」 <展開描法・多視点画法>

Ⅲ 図式期

小学2年



「ワニ」の絵をかくのに、口は横から、背中は斜めから、4本の足は上から見たようにかいている。大人のように、一つの視点から見たようにかくのではなく、その特徴がかき表しやすいように、多視点から見たものを組み合わせてかいている（多視点画法）。この時期の子どもは、見えたものをそのまま写実的にかくのではなく、知っている（記憶している）ことを絵にかく。漠然とした全体知覚が優勢の時期。

1-31 「お父さんと自転車で散歩」

Ⅲ 図式期

小学2年



父と自転車に乗って散歩に行った絵。自転車をよく見てみると、ペダルは三輪車のように前輪の車軸につき、チェーンは後輪と連動していない。ペダル、チェーン、車輪をばらばらに認識しているが、その機能のつなかりは理解していないことが分かる。

1-32 「水泳大会」 <同時性>

Ⅲ 図式期

小学2年



水泳大会で、スタートする前、泳いでいるところ、ゴールして表彰台で表彰されている三場面を同一画面に同時にかいた（同時性）。

作品 1-14 「運動会」と共通。

1-33 「ショベルカー」 <レントゲン描法>

Ⅲ 図式期

小学2年



ショベルカーがどうして動くのか、その仕組みに興味があり、レントゲン撮影のように透き通して機械の仕組みを連動させてかいた（レントゲン描法）。

1-34 「にわとり」

Ⅲ 図式期

小学2年



先生は、子どもが飼育している2羽のチャボ（にわとり）を写生してもらおうと、教室に連れてきて写生をした。ふと見るとこの子は、ヒヨコや左端に卵をかいている。先生が「あれ！ ヒヨコなどいないじゃない」というと、子どもは「2羽だけでいつも寂しそうなので、ヒヨコがいればいいので、かいたのよ」。しばらくして、首の付け根ま

でいろいろな色を塗っているので、先生はあわてて「チャボ、そんな色している？」と聞くと、子どもは「きれいな服着せてあげているの」といった。先生はチャボの写生をして、見たようにかいてほしかったが、子どもは絵をかきながら、イメージをふくらませ、お話をかいていた。

IV 写実の黎明期

8歳～11歳ごろ

部分知覚が優勢で、部分的に詳しく見ることができるが、全体的には見渡せないのが、矛盾のある絵をかく。

図式的表現傾向から写実的表現傾向に移行する過渡期的な時期。

羅列的な表現から、立体、重なり、奥行き、遠近などの空間的表現が出はじめるが矛盾のある表現になる。

1-35 「大玉ころがし」

IV 写実の黎明期

小学2年



図式期の絵と全く異なる表現が出はじめる。

中央の手前の人物が本人で、大玉をころがしている動作（動き）が出てきた。その向こうに友だちを重ねてかいた。

4人で大玉をころがしたので、どうしても4人かきたくて、3人目は地面から浮き上がり、4人目は、申し訳程度に、頭と足だけ玉の向こうにかいている。相手の大玉は小さくかいている。人の動き、重なり、奥行き（はじめは基底線上に大玉をかいているが、後で全体を地面にして、奥に観客席をかいている）をかきはじめるが矛盾のある表現。

1-36 「友だち」

IV 写実の黎明期

小学3年



上半身は写実的にかけたが、足の部分では意欲がなくなったのか細くなった。このように部分的にはものが見られるが、全体的にはものが見られないのがこの時期の特徴である。

1-37 「電車」



IV 写実の黎明期

小学3年

真ん中の電車は遠近感があり、カッコよくかいたが、上と下の電車は横から見たようにかいたので、全体としては、矛盾のある絵になった。3、4年生の子は「かけた！」と満足しているが、5、6年生の子は「どこがおかしい」と気づきはじめる。

この時期は部分知覚が優勢の時期で、一つ一つの細かいことにこだわってかくが、画面全体を統一的な視点でかけないので、矛盾のある絵になりやすい。

1-38 「道路工事」



IV 写実の黎明期

小学3年

力強くダイナミックで、細かい機械の部品にこだわってかく写実の黎明期の典型的な絵。

この時期は部分知覚が優勢の時期で、一つ一つの細かいことにこだわってかくが、画面全体を統一的な視点でかけないので、矛盾のある絵になりやすい。この絵にも見られる。

1-39 「僕のお父さんは魚屋さん」



IV 写実の黎明期

小学4年

僕のお父さんは魚屋さんであることに誇りをもってかいている。何故なら、お父さんは大きく、魚は詳しく生き生きとかいているからである。それに店の名前や電話番号まで大きくかいている。お客さんと店員は関心が薄いので小さくなった。

1-40 「台所」

IV 写実の黎明期

小学4年



台所で食事の用意をしている母。「きょうのおかずは何？」と言っているところ。ガスの火や鍋が詳しくかけている。左手に持つしゃもじ、器、その向こうの椅子などに重なりや奥行きがかかっている。

1-41 「私が船長になったらこんな船に乗りたい」

IV 写実の黎明期

小学5年



「私が船長になったらこんな船に乗りたい」という想像画。船の外形は普通にかいて、船の内部をレントゲン描法で想像してかこう、というのが指導者からの課題でかいた。船の中に、下から機関室、寝室、レストランなどを想像してかいた。この時期の子どもは、自分の思いやイメージを自由にかける表現力が育ってきている。

1-42 「屋上からの写生」

IV 写実の黎明期

小学5年



校舎の屋上から、周りの景色を見下ろすようにしてかいた。中央の二階建ての屋根は遠近感が出ているが、壁をかくとき、特に右側の壁の奥行きを出そうとしたが、垂直の壁を窓に影響されて傾けてかいた。左上の建物もいろいろな方向に傾いてしまった。遠近を出したいとき、どの建物も垂直な線は垂直にかくのであるが、この時期の

子どもは、遠近感をどのようにかくとよいのかあまり理解できていない。

この子の絵は特別でなく、半分以上の子が、遠近や奥行きを、遠近法や透視図法的に表現できず、矛盾のある表現になってしまう。遠近や奥行きのある景色をかくときは、簡単な遠近、立体、奥行きの表現の仕方を学習してから取り掛かる方がよい。

V 写実期

11歳～14歳ごろ

部分知覚と全体知覚が統合され、客観的な表現ができる。

観察力が増し、客観的、写実的であるがままの表現ができる。

明暗、陰影、立体感、奥行き、空間などが理解できる。

予想をたてて、計画的に作業ができ、批判、評価、鑑賞する力が育つ。

1-43 「顔」

V 写実期

小学6年



友だちの顔をかいた。下の絵は「首筋は陰になっているでしょう」「上唇は陰で暗くなっていて、下唇は光が当たって光っているでしょう」と先生に言われ、意識して陰影をかこうとしている。

写実期に入ると、陰影や明暗、奥行きや遠近を説明すると理解はできるが、思い通りに表現できるとはかぎらない。

1-44 「演奏」

V 写実期

小学6年



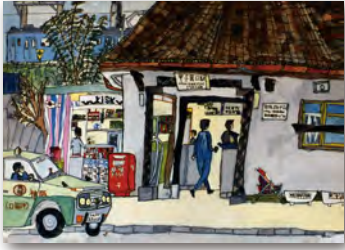
楽器を演奏しているところ。

6年生ごろの子どもがよくかく典型的？な絵。

1-45 「駅」

V 写実期

小学6年



駅前で写生をした。タクシー、改札口の様子、ポストなど、この子なりの表現でよくかけている作品だ。

1-46 「静物」

V 写実期

中学1年



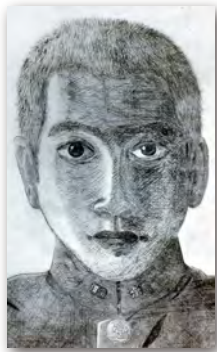
椅子と楽器を写生した。椅子やカバンや床が、細かい所まで、色彩豊かにかかれた作品である。

しかし、椅子、カバン、左の打楽器の立体感や奥行きや遠近の表現はまだ理解できていない。

1-47 「自画像」

V 写実期

中学2年



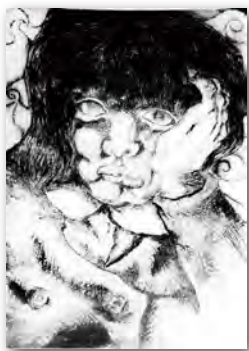
次の1-48の作品と同じクラスの生徒作品。この作品はクラスの中で上手にかけた方の作品。

よく観察して、陰影や立体感を表現する工夫をしている。ドライポイント（プラ版にニードルでかいて凹版印刷した）。

1-48 「自画像」

V 写実期

中学2年



表現がダイナミックで、心情（内面）まで表現している作品。この女生徒は、成績はごく普通の子であるが、精神的には非常に成熟している。平均的に男性より女性の方が、全体的に2～3年成長が早い。

1-49 「植物の芽」

V 写実期

中学2年



植物の新芽が出はじめる4～5月に写生した。中央上の植物の芽に焦点をあて、精神を集中させて、その芽からかくようにした。心を集中させて、興味のある部分あるいは絵の中心になるもの（たとえば、花をかくとき、花の雌しべからかく）に焦点を当てて、そこからコツコツ順番にかいていくと、形が見えてきて細かいところまで観察する目が育ってくる（私は焦点画法とっている）。

VI 完成期

14歳～18歳ごろ

興味をもち集中すると、
高度な描写や表現ができ、
技術的にも精巧な表現ができる。

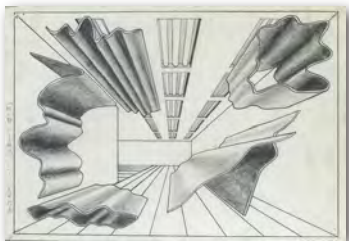
抽象性、思想性、社会性など
深まりのある思考や表現ができ、
一人の人間としての土台が築かれる。

外形の美だけでなく、
内面的な心情や思想的な美も理解できる。

1-50 「透視図法」

VI 完成期

中学3年



透視図法の基本を学習してから、透視図法を生かして「建造物」をかいた。上は一点透視図法で不思議な空間をかいた。下の作品は二点透視図法で、建造物をかいた。完成期の生徒は知的レベルに合った教材に興味をもって取り組むと、知的にも、創造的にも、技術的にも、非常に高度な表現ができる。

完成期の名称については、人間としての土台（基本）ができたという意味で、何もかも完成しこれで終了という意味でない。

1-51 | 「デザイン」

VI 完成期

中学3年



透視図法を生かしてかいた。透視図法の基本的な学習は、中学3年から高校で一度は学習しておきたい。

1-52 | 「人間」(グラデーション)

VI 完成期

中学3年



「人間」ということをテーマにして、愛、友情、希望、平和など、抽象的にかいた。彩色については、「色のグラデーション」を生かすことを条件にした。

1-53 | 「平和ポスター」

VI 完成期

中学3年



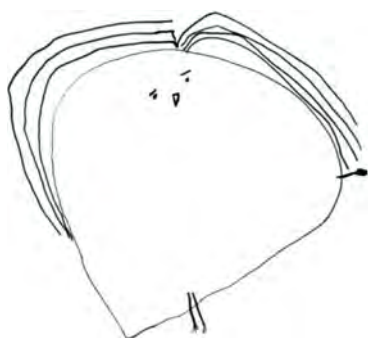
「人間」というテーマで、人種差別、社会問題、人権問題、戦争・平和問題など現代社会の抱える諸問題を社会に訴えるポスターを制作した。

この時期の若者たちに、造形表現を通しての国際問題、社会問題を直視する学習は社会性を育てる意味で重要なテーマである。

2 古代の絵・現代絵画との比較

生物学の世界では、ドイツのヘッケルが「個体発生は系統発生を繰り返す」と言っているが、子どもの絵と古代の人の絵にも共通性が各所に見られる。

古代人のかいた絵を、子どもの絵の表現から分析するのも一つの方法である。



2-1 虎塚古墳石室壁画



7世紀の古墳時代の彩色古墳の石室にかかれた絵。石室の飾りの副葬品が象徴的に羅列的にかかれているが、子どもの絵の象徴期から図式前期の絵と共通している。

とらづか
虎塚古墳石室壁画 7世紀初め頃 ひたちなか市教育委員会蔵 [茨城県]

2-2 「猪を狩る人」



香川県（江戸時代の讃岐国）で発見されたとされる銅鐸の絵。狩りをする人と猪は横から見た視点でかかれているが、猪を取り囲む犬は、上から見た視点からかいている（多視点画法）。

図式期の子がよく使う表現。

けいさきもんどうたく
袈裟禪文銅鐸（国宝・部分） [高さ 42.7cm] 前2～前1世紀
東京国立博物館蔵
Image: TNM Image Archives

2-3 「インド山岳民族の壁絵」



インドの山岳民族によってかけられる壁の絵であるが、円陣を組んでいる人を放射状に展開描法でかき、建物の中を透過してかいている（レントゲン描法）。

400年ぐらい前から表現様式を引き継いでかかっている。

穴の中で雨乞い [彩色・コンクリート壁／99×99cm] 1996 ミティラー美術館蔵 [新潟県]

サダシ・ジブヤ・マーシェ [インド・1958～]

2-4 「ワニ」(オーストラリア／アボリジニ)



アボリジニの人にとっては、ワニは神聖な動物なのでたくさんかかっているが、共通して頭部は横から、足は上から胴体は斜めからかいている。一つの視点からかくのではなく、その特徴を表しやすいように、いろいろな角度からかいている（多視点画法）。子どもがかいた作品1-30の「ワニ」と共通している。

クロコダイル [彩色・樹皮／118.5×68cm] 1948 ニューサウスウェールズ州立美術館蔵 [オーストラリア] ミック・クバーク [オーストラリア・1925～]

VISCOPY,Sidney&JASPAR,Tokyo,2016
C1036

2-5 「古代エジプトの壁画」



古代エジプトでかけられた壁画には、「子どもの絵は何を語るか」170頁にあるように、正面性の法則、多視点画法、遠くのを積み重ねてかくなど、子どもの絵と共通性がある。

葡萄の収穫（ナクトの墓壁画） [彩色・漆喰] 前1410頃 [エジプト]

2-6 「人形劇場」パウル・クレー



20世紀の代表的な抽象画家クレーは、写真機が出まわり、写実よりもっと新しい表現を見出そうと、自分の子どもの絵を見て「私は子どものような絵をかきたい」と試みた。

人形劇場 [水彩・ペン・紙／52×37.6cm] 1923 パウル・クレー・センター蔵 [スイス] パウル・クレー [スイス・1879～1940]

2-7 | 「夜の中の女と鳥」 ジョアン・ミロ



ミロは従来の遠近や奥行きを取り払い、浮遊するよ
うに絵記号を組み合わせて絵をかいた。子どもの象徴
期の絵と共通している。

夜の中の女と鳥 [油彩・キャンヴァス／146×114cm] 1945 ジョアン・ミロ財団蔵 [スペイン] ジョアン・ミロ [スペイン・1893～1983]

©Successió Miró-Adagp, Paris&JASPAR, Tokyo, 2016
C1019

2-8 | 「泣く女」 パブロ・ピカソ



人の顔をあえて、鼻と口は横から、目は正面から、
手もいろいろな角度からかき、立体を平面の画面にど
う表現するか試みたキュービズム（立体派）の作品。
20世紀を代表するピカソが60歳になったとき「私は
やっと子どもの絵にたどり着いた」と、子どもの絵の
表現に憧れていた。

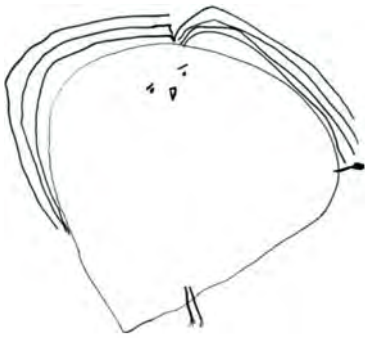
泣く女 [油彩・キャンヴァス／60.8×50cm] 1937 テート蔵 [イギリス]
パブロ・ピカソ [スペイン／1881～1973]

©2016-Succession Pablo Picasso-SPDA(JAPAN)

3 子どもの形や空間認識の発達

3歳児～11歳児〈小学6年〉

子どもの発達に伴って、立体・空間表現がどのように推移するかをまとめた。

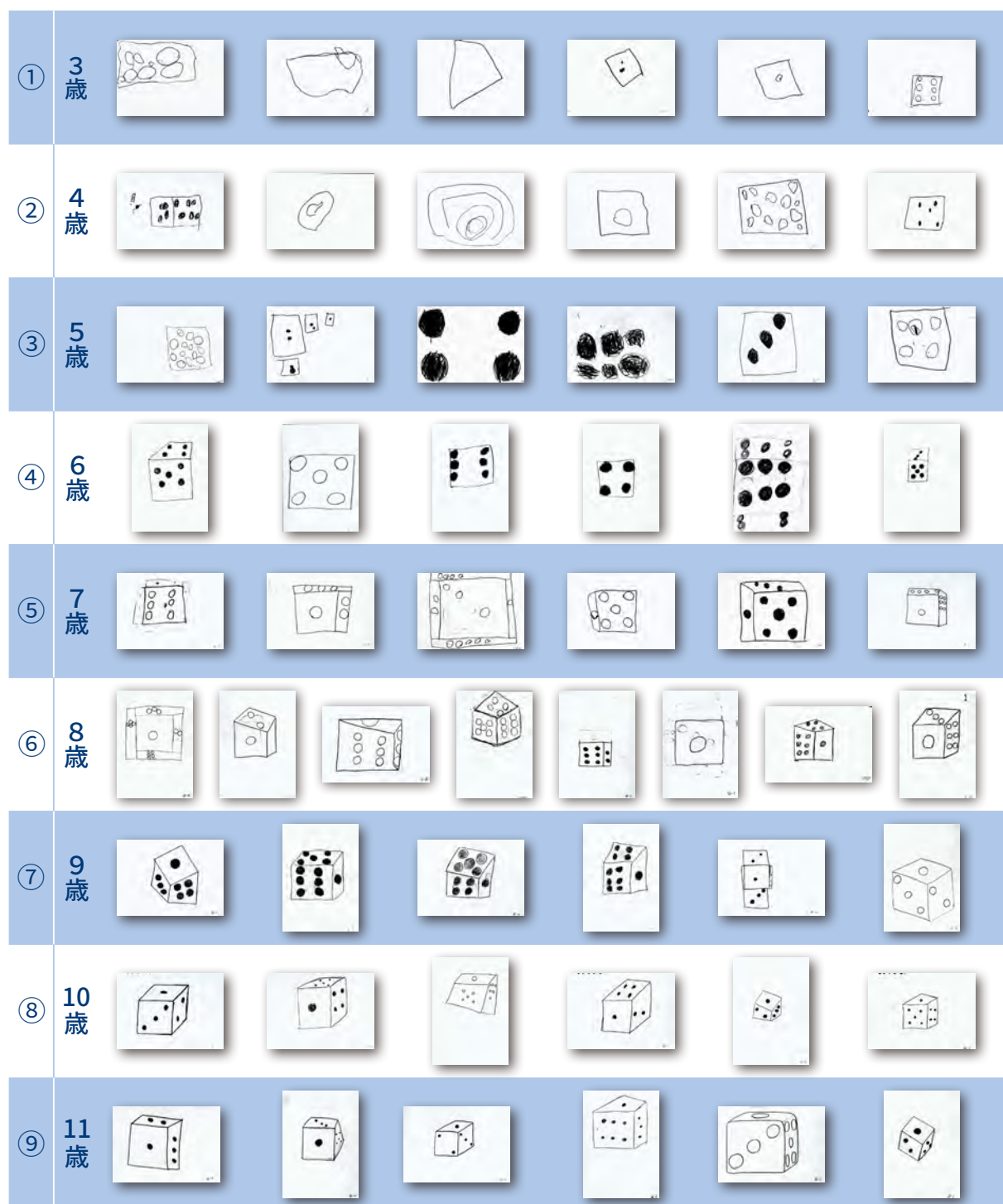


年齢(歳) 学年	3	4	5	6 1年	7 2年	8 3年	9 4年	10 5年	11 6年
立方体									
コップと水									
りんごと皿									
食卓と人									
	存在を表現	象徴的 平面表現	視点の複合・平面表現 (図式・展開・側面)	矛盾のある 立体表現	一視点による 立体表現				
	なぐりがきの時期 (1歳半～2歳半ごろ)	象徴期 (2歳半～4歳ごろ)	図式期 (5歳～8歳ごろ)	写実の黎明期 (8～11歳ごろ)	写実期 (11～14歳ごろ)				

3-1 ①～⑨ | 子どもの形や空間認識の発達 立方体（サイコロ）

子どもたちに、サイコロを見せてかいてもらった。3歳児は丸の形だけかいて、サイコロだ
とって存在を示す。 4歳児になると、四角の中に、サイコロの数だけ点を入れて、象徴的に
絵記号のサイコロをかいた。 5、6、7歳児は絵記号の1面だけのサイコロに、側面が気になり
出し、上の面だけでなく、側面の数の点をかこうとするが、立体的にかくのではなく
平面的な絵
をかく子が、年齢が進むにつれて増える。上の面と側面の1面だけかく子が多い。

8、9歳児になると、立体的に表そうとするが、対辺が平行でなく、傾いたような歪な立方体（矛
盾のある形の立方体）をかく。 10、11歳児になると、算数の時間で学習することもあって、ほ
ぼ全員が、対辺が平行な立方体をかく。



3-2 ①～⑨ | 子どもの形や空間認識の発達 水の入ったコップ

コップに3分の2ぐらい水を入れて見せる。3、4歳児は、コップを丸の形をかいて、中に水を鉛筆で塗り込んで、水の存在を示す。 5、6歳児は、大多数の子は図式的に側面から見たコップをかく。 水面は1本線で水平に引く。 7、8歳児は、コップの口が丸いことに気付き、斜めから見たように楕円形にかいたりするが、コップの底を水平（平らなテーブルに置かれているので）にかいたり、水面だけ直線にかいたりする。 コップの口、水面、底の形が一致しない。 9、10、11歳児は、コップの口、水面、底が、斜めから見たような絵が出そろふ。 10、11歳児になると、コップを立体的にかいたり、陰影や質感をかき表そうとする。



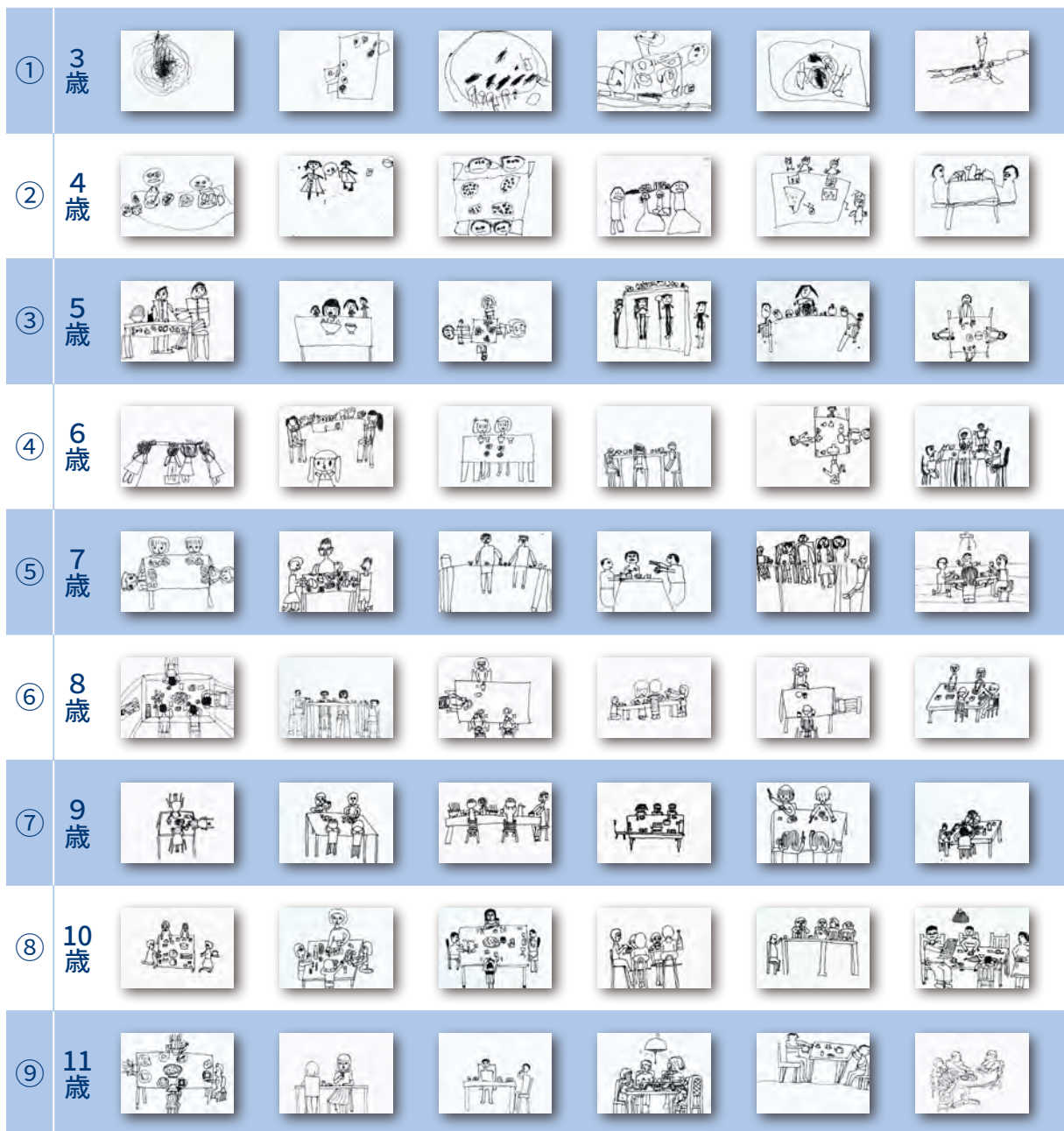
3-3 ①～⑨ | 子どもの形や空間認識の発達 リンゴと皿

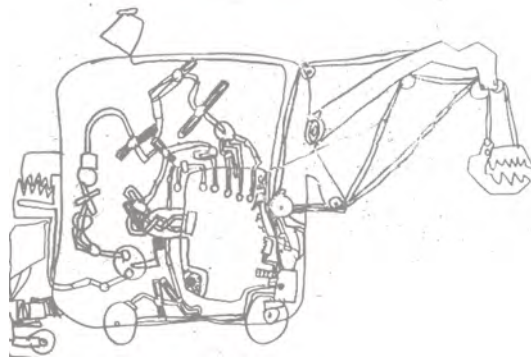
リンゴ3個と大きい皿を見せる。3、4歳児は丸い皿とリンゴは横に3個並べて、リンゴが3個ある存在を示す。皿の中に3個並べてかく子もいる。5、6、7歳児は、上から見た丸い皿に、3個のリンゴを三角形にかく子と、側面から見たように並べてかく子に分かれる。8、9歳児は皿を丸や斜めから見た楕円形にかき、3個のリンゴを三角形にかき、リンゴが重なったように、あるいは皿とリンゴに重なりをかく子が増えてくる。10、11歳児になると皿とリンゴを重ねるを考えてかき、陰影や立体感を出そうとする。



3-4 ①～⑨ | 子どもの形や空間認識の発達 食卓と食べる人

食卓で食事を家族でしているところをかいてもらった。**3歳児は**、食事をしている**家族と食卓の上の食器などの存在を表しているが、位置関係は認識していない**。**4歳児では食卓は長方形**にかいて食器をかいているが、**人物は顔だけをかくなど食卓の周り**にかいている。**5歳児になると、2種類の画法に分かれる**。**上から見たように食卓を長方形にかいて、家族はその周りに展開図的にかく子（食卓の足はいろいろな方向にかく子もいる）と、側面から見たように、食卓に4本または2本足をかき、食器は食卓の上にかいている**。家族は椅子に座っているようにかく。**6、7歳児は長方形の食卓は上から見たようにかき、その上の食器は、同一方向でかく場合と4方向から見たようにかく**。**長方形の食卓の下に2本の足**。家族は側面から見たように両側にかき、食卓の上に人をかく場合もある。**8、9歳になると食卓を平行四辺形にかき奥行きを感じさせる絵も加わってくる**。食卓の食器や家族の様子も詳しくかいている。**10、11歳児は、写生風**に食事の様子をかいている。





東山 明 (ひがしやま あきら)

神戸大学名誉教授。主な著書に『美術教育と人間形成』(創元社)、東山直美との共著で『子どもの絵は何を語るか』
<発達科学の視点から> (NHK ブックス 863・日本放送出版)。
監修または編集として『中学校・高校美術科ニューヒット教材集』、『図工科ニューヒット教材集』、『目指せ図工の達人! 基礎基本をおさえた絵の指導のコツ』(いずれも明治図書出版)など。

清田哲男 (きよた てつお)

岡山大学大学院准教授。兵庫県内公立中学校・高等学校教諭、川崎医療福祉大学医療福祉デザイン学科を経て、現職。博士(学校教育学)。第57回読売教育賞優秀賞など。
著書に『わかる!できる!うれしい!3STEPで変わる「魔法」の美術授業プラン』『子どもの笑顔をつくるゾ!みんなで満足「魔法」の絵画授業プラン』(いずれも明治図書出版)など。

子どもの絵の発達と道筋

子どもの絵の作品と説明

日文 教授用資料

平成28年(2016年)6月23日発行
平成28年(2016年)8月26日2刷

編集・発行人 佐々木秀樹

発行所 日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33307

日本文教出版 株式会社

<http://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171
東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618
九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938
東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵1-13-18-7F・B
TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261
北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690